

# 令和7年度研究推進計画

## 1 研究主題

主体的に学び続ける子どもの育成  
～子どもの「したい」「考えたい」を大切に活動を通して～

## 2 研究主題設定の理由

本校では、令和2年度から「個別最適な学び」実証研究事業の取組が始まり、イェナプラン教育の理念を取り入れ、学校生活の教育活動を通じて主体的に学ぶ児童の育成に努めてきている。単元内自由進度学習では、児童が自分のペースや理解度に応じて学習を進めており、異学年集団によるワールドオリエンテーションでは、学年の枠を超えて児童同士が学んだり関わったりしている。このような姿から、本校の学習スタイルとしてしっかり根付いてきていることがわかる。

これまで、学年の実態に応じた各担任の工夫が数多く見られている。国語科や算数科だけではなく、理科や社会科でも自由進度学習を実施したり、2～3の教科を組み合わせ学習計画を立てたりした学年、学習計画表を自分で作って見た学年がある。また、単元開始時のインストラクションを工夫し、児童の学習意欲を高めることで、児童自身が学習目標を立てる様子や、単元終了時にルーブリックを使って自己評価を行う様子が見られる。ただ単に自由な進度で学習しているだけでなく、目的意識をもち、目標に向かって学習を進めていることから、自己調整力を育むことに繋がっているようである。

年度当初に、「学習計画表」「学習環境」「個への支援」の3点を重点として全学年で取り組むこととした。それぞれの学年の実態に応じた「学習計画表」や、意図的に計画表とセットした「学習環境」を組み合わせるなど、創意工夫をしたり、あるいはみんなで知恵を出し合ったりしながら取り組むことができた。また、広島県教育委員会が主催する「個別最適な学びに関わる教職員研修」の会場校となり、第1学年の算数科「くらべかた」の授業を公開した。担任の適切な児童実態把握のもと、低学年にもわかる学習計画表をデザインしたり、より充実した「ミッション(体験・チャレンジコーナー)」を考案したりすることができた。児童が楽しく学べることや、各教員の指導改善につながっている。

自由進度学習を行った国語科や算数科の学習に関わって実施した児童アンケートでは「①学習すべきことを考えて、自分から進んで学習に取り組んだ。」「②学習時間を考えながら、自分のペースで学習しようとした。」の2項目で9割の児童が肯定的に回答している。「③学習内容がわかるように、色々な学び方を試してみた。」においても、8割の児童が肯定的に回答している。③については、様々な学び方を選び、自分に合った方法を見付けることができている一方で、「色々な学び方を試す」ということがどういうことなのかよくわかっていない児童もいる。

自己調整に関わる質問紙調査では、「計画や見通しをもって学習を進める」「目標に向け自分で学習を進める」「難しい学習に対する持続性」「自己効力感」の項目で後期のポイントが下がっていた。児童は、やらされている気持ちが強く、目標への関与が不足していることがわかる。

このことから、教師が児童の学習意欲を喚起する力や児童が学習意欲を持続させる力が付いてきていることがわかる。また、学習計画表が、学習の見通しをもち、自分のペースで学んでいることがわかる。さらに、自分から友達と学び合いをする児童の学びの姿も見えてきた。一方で、「色々な学び方を試す」ことがどういうことなのかを理解していない児童に対しては、まず、学び方にはさまざまな方法があることを具体的に示し、その方法を実際に体験させる機会を設けることが必要である。たとえば、一人で考える、友達と相談する、先生に質問する、資料やタブレットで調べるなどの異なる学び方を「見える化」し、それぞれの良さや使いどころを比較できるようにすることで、自分に合った方法を意識して選べるようにする。また、授業の中で「今日はどの方法で学んだか」「ほかの方法だったらどうだったか」を振り返らせることで、児童が学び方の違いを自覚し、状況に応じて学び方を選ぶ力を育てていくことで、自ら進んで学習し、自己効力感を高めることにつなげていく。

江田島市が実施した学習調査の結果においては、校内平均が全国平均及び江田島市平均を上回った学年は、国語科で5つ、算数科で5つ、理科で3つの学年だった。自由進度学習や異学年集団による協働学習を取り入れ、児童に応じた手立てを工夫することは、主体的に学び、学力を向上させることにほぼ有効であった。また、第6学年は理科の学習が好きで主体性が高く、年々得点率が上がっていることから、「したい」「考えたい」を大切にすることの効果が見られた。

しかし、学習内容によってはつけない力をつけるための学習方法や学習形態、発達段階によっては学習の仕方を身に付けさせることが大切であり、児童の実態に応じながら学習内容に合わせて単元内自由進度を取り入れていく必要がある。特に、自由進度学習の中で、「何で学ぶか」「どこで学ぶか」「誰と学ぶか」など、児童が選択する場面を明確にしていくことを校内で共有していく。さらに、低学年においても異学年集団での学びを内容に応じて設定していく必要がある。

また、昨年度に引き続き考えていくことや、今年度新たに考えていくことがある。

- ① 三高小の児童につけたい学力とは何か、めざす児童の具体的な姿
- ② 自由進度学習の学びを成立させるための学習環境のあり方
- ③ 一人でなかなか学びを進められない児童に対しての支援のあり方
- ④ 児童に自己調整力を付ける学びのふり返りのあり方

そこで、引き続き、研究主題を「主体的に学び続ける子どもの育成」とし、サブテーマを「子どもの『したい』『考えたい』を大切に活動を通して」として、「単元内自由進度学習」、「異学年集団による協働的な学習」を進め、工夫し積み上げていくことが、「自立して学ぶ力」を身に付け、他者と協働して学ぶことができる児童を育てるために必要だと考える。

### 3 研究仮説

児童の「したい」「考えたい」を大切に活動を通して、次のような点から行えば、自己調整力を身に付け、主体的に学び続ける児童を育成することができるであろう。

- ・ 「自立して学ぶ力」を身に付ける授業づくり（単元内自由進度学習）
- ・ 他者と協働し、探究的に学ぶ単元づくり（異学年集団による協働的な学習）

### 4 研究の基本的な考え方（三高小の児童につけたい学力についての考え方）

文部科学省での学力の定義をもとに、本校では**学力**=**学び方**ととらえ、以下のように考えている。

<b>学力</b> （文部科学省）	（子どもたちに求められる学力＝確かな学力）
<b>知識・技能</b>	+ 学ぶ意欲、自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質・能力



<b>学ぶ力</b> （三高小での考え方）
★学ぶ意欲、興味関心、問題意識がある
★今、自分が何を学ぶかが分かる
★どのように学んだらよいか分かる
★そのためにかかる時間やすることを見積もれる
★いろいろな学び方のうち、どれが適切か選択できる

## 5 研究内容

### (1) 「自立して学ぶ力」を身に付ける授業づくり

- ・ 学習の見通しをもって取り組めるインストラクションと、個に応じた学習内容・方法の選択
  - ※ 児童が学習目標や評価基準を理解し、何をどのように学ぶかを自ら選べるようにすることで、主体的に学習に取り組む力を育てる。
- ・ 学習計画表を活用した進め方と、振り返りを通じた自己調整力の育成
  - ※ 児童が自分の学習の進捗や内容を見通して進め、振り返りによって学習の質を高め、次につなげる力を養う。

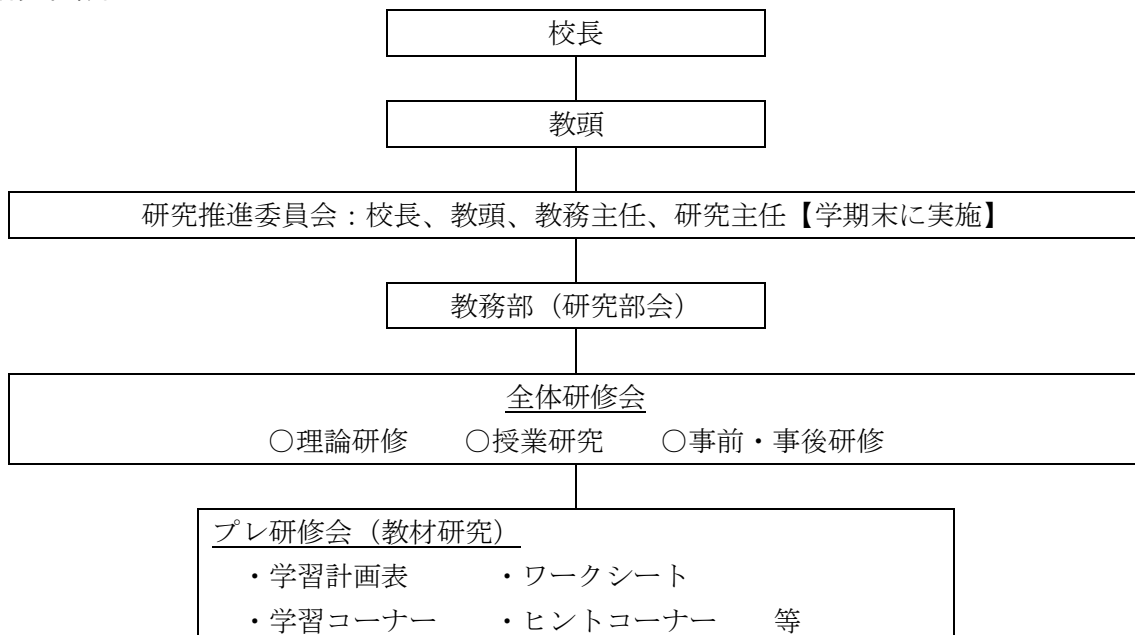
### (2) 他者と協働し、探究的に学ぶ単元づくり

- ・ 異学年での関わりを通して学び合う、協働的な学習の場の設定
  - ※ 総合的な学習の時間等を活用し、異学年集団で関わりながら学ぶことで、相手意識や伝える力を育む。
- ・ 地域をテーマとした体験的な課題に取り組み、探究的に学ぶ学習過程の工夫
  - ※ 地域をテーマに、実感を伴う活動や問いをもとに探究を深めることで、課題を見付け、解決に向けて考える力を育てる。

## 6 検証計画

(1) 検証方法 学びの姿を多面的に捉える	(2) 検証の指標 目指す姿の達成度を測る
1 児童アンケート	◎ 児童の学びアンケートにおける肯定的回答が90%以上
2 児童の学習の様子、ノート（ワークシート）、振り返り ※ 学習の様子を写真に撮って保管しておく。 ※ 学習計画表は、ノートに貼ったりファイルにまとめたりして保管しておく。	◎ 振り返りやノート（ワークシート）に、自己調整の様子が見られる児童の割合が70%以上 ※ 見通しを立てた記述、学びの方法の選択、自らの課題や工夫を記述している。
3 江田島市学力調査	○ 全国平均と同等またはそれ以上の正答率

## 7 研究組織図



## 8 校内研修経過

月	日	研修形式	内容	講師招聘
4	1	○全体研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校研究主題、研究推進計画について</li> <li>・理論研修（今年度の方向性について）</li> </ul>	
4		○全体研修 ○個人研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サークル対話を体験し、意義を知る。</li> <li>・三高小でのサークル対話の実践について。</li> <li>・ScTN 質問紙受検について</li> </ul>	
5		○授業研究・協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自由進度学習参観【第5・6学年】</li> <li>・現段階での学習計画表や学習コーナー等の取組を共有する。</li> <li>○協議会</li> <li>・今後、どのような学習環境であれば、児童が自己選択、自己決定できるか考える。</li> </ul>	鹿児島国際大学 住田 裕子 教授
6		○全体研修	○自己調整に関わる質問紙調査について	鹿児島国際大学 住田 裕子 教授
7		○プレ研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材研究 1</li> <li>・学習指導要領解説及び教科書を確認する。</li> <li>・学習目標、課題を検討する。</li> <li>・学習環境の工夫を考える。</li> </ul>	
7			自己調整に関わる質問紙調査（前期）実施	
8		○プレ研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材研究 2</li> <li>・学習計画表の検討をする。</li> <li>・児童の「つまずき」や「学びの広がり」を想定する。</li> <li>・教材やヒントカード等を考える。</li> </ul>	
9		○授業研究・協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自由進度学習参観【第●学年】</li> <li>○協議会</li> </ul>	鹿児島国際大学 住田 裕子 教授
11		○プレ研修	○教材研究 1	
12		○プレ研修	○教材研究 2	
12			自己調整に関わる質問紙調査（後期）実施	
1		○授業研究・協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自由進度学習参観【第●学年】</li> <li>○協議会</li> </ul>	鹿児島国際大学 住田 裕子 教授
2		○全体研修	・江田島市学力調査結果の分析	
2		○全体研修	自己調整に関わる質問紙分析	鹿児島国際大学 住田 裕子 教授
3		○全体研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間のまとめ</li> <li>今年度の研究推進の成果と課題</li> </ul>	

※ ScTN 質問紙は、児童の実態を調査するために、担任が必要に応じて単元末や学期末に適宜実施する。

9 研究構想図

学校教育目標

自ら学び、ともに伸びる子どもの育成  
～『みんな・たのしく・かっこいい』学校～

【育てたい資質・能力】

主体性

自ら考え、学ぶ  
自己調整する

自己効力感

「自分ならできる」「きっと  
うまくいく」と思える

共感力

他者を認め協働する

表現力

思いをもち自分らしく表  
現する

研究主題

主体的に学び続ける子どもの育成  
～子どもの「したい」「考えたい」を大切にした活動を通して～

【研究仮説】

子どもの「したい」「考えたい」を大切にした活動を、次のような点から行えば、自己調整力を身に付け、主体的に学び続ける児童を育成することができるであろう。

- (1) 「自立して学ぶ力」を身に付ける授業づくり(単元内自由進度学習)
- (2) 他者と協働し、探究的に学ぶ単元づくり(異学年集団による協働的な学習)

主体的に学び続ける児童

自立

協働

国語科、算教科を中心とした  
単元内自由進度学習

「自立して学ぶ力」を身に付ける授業づくり

- 学習の見通しをもって取り組めるインストラクションと、個に応じた学習内容・方法の選択
- 学習計画表を活用した進め方と、振り返りを通じた自己調整力の育成

異学年集団による  
ワールドオリエンテーション

他者と協働し、探究的に学ぶ単元づくり

- 異学年での関わりを通して学び合う、協働的な学習の場の設定
- 地域をテーマとした体験的な課題に取り組み、探究的に学ぶ学習過程の工夫